



全青中だより

Vol.10

会長あいさつ

上山 泰寛

若葉の鮮やかな季節、皆様には日頃より全青中の活動へご理解ご協力いただいておりますことに心より感謝いたします。又、各都道府県の青年中央会・協議会におかれましては新年度の新しい体制のもと、素晴らしいスタートを切られていることとお喜び申し上げます。

私は、次年度への引き継ぎを含め6月13日に宮崎県宮崎市で開催される平成26年度全国中小企業青年中央会通常総会に向けて開催県と鋭意打ち合わせを行っています。当日は、代表者会議も開催され、今後の全青中の取り組みもプレゼンテーションされる予定です。又、今回は地元色を前面に出した同世代の経営者による「講演会」を企画しています。内容は、先代から紆余曲折を経ての事業承継、自らの起業、そして現在全国でも脚光を浴び活躍する講師が下記のテーマでご講演いただきます。

「宮崎の情熱を九州へ、そして全国へ！」

～佳い食のチカラでまちを元気に～

総会当日は全国各地より宮崎まで遠方よりの移動となりますが、宮崎県をはじめ九州ブロックのメンバーが多くの方々のご来県を心よりお待ちしております。全国のメンバーが集う機会に何らかの成果と気づきを持って帰っていただき、各地域に新しい風を吹き込んでいただきたい思いで一杯です。どうぞよろしくお願い致します。

2013年度スローガン「会心の仲間達よ! *Feel the new wind*」

結びになりますが、皆様の益々のご健勝を祈念し挨拶とさせていただきます。



会長活動記録

10月24日 第65回中小企業団体全国大会 滋賀県

11月8日 全国中小企業青年中央会全国講習会 三重県



11月20日 一般社団法人湯沢青年会議所 45周年
パネルディスカッション参加

12月6日 全国友好4団体 top 会議 秋田県



平成26年1月23日 愛媛県中小企業団体中央会青年部協議会 年賀交歓会



2月4日 第15回全国商工会青年部連合会
全国大会 埼玉県

3月21日 日本商工会議所青年部全国大会 栃木県

3月12日 全国友好4団体 top 会議 宮崎県



4月15日 全国中小企業青年中央会役員会
懇親会 宮崎県



4月16日 中国ブロック青年中央会代表者会議 山口県



5月26日 全国友好4団体 top 会議 沖縄県



M I Y A Z A K I



平成26年度 全国中小企業青年中央会 通常総会

開催日 平成26年6月13日(金)

場所 ニューウェルシティ宮崎

懇親会費 お一人様10,000円

ご挨拶



全国中小企業青年中央会
会長 上山 泰寛

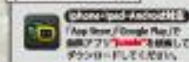
来る6月13日(金)に平成26年度全国中小企業青年中央会の通常総会を宮崎県で初めて開催することとなりました。

当日は、通常総会のほかに全国代表者会議、講演会を併せて開催し、皆様の地元青年部に必要な情報の提供と地域を越えた情報交換、連携の一助となるよう努めて参りたいと考えております。

1年に2回の全国の仲間が集う有意義な場となります。「会心の仲間達よ! Feel the new wind」のスローガンのもと、各青年部会員の多数の御参加をよろしくお願いいたします。

スマホやタブレットもかざすと…なんと!!
スペシャル動画が浮かび上がります!!
下記のQRコードをダウンロードし起動、
上の写真をかざすと…!?

YouTubeにダウンロード済み



アプリをダウンロードし起動し、QRコードをかざすと、アプリが起動します。



スケジュール

- 12:30~14:15 全国代表者会議
- 14:30~16:00 通常総会
- 16:15~17:30 講演会



「宮崎の情熱を九州へ、そして全国へ!」
～佳い食のチカラでまちを元気に～

【講師】 有限会社一平
代表取締役 村岡 浩司氏

1970年生まれ 宮崎県宮崎市出身
レタス巻の元祖店として知られる「一平寿司」の二代目店主、
高校卒業後、米国(コロラド州)に留学、帰国後、小売卸業を
創業。
いくつかの大きな失敗を経験しながら、現在は一平寿司、ク
リーズコーヒー(6店舗)やカフェ・パル、蕎麦屋など多数
の飲食店舗経営に携わる。
また、「新しい食文化を創造し、地域とひとを元気にする!」と
いう企業理念のもと、本業の充実を例ながらNPOを通じて
地域貢献活動、まちづくり活動にも精力的に取り組んでいる。
特に、自身が実行委員長を務める「街市」は、商店街活性化の
ための新たな取組として、全国的にも注目を集めている。

18:00~20:00

懇親会

あの…ビッグスターが…!



主 催：全国中小企業青年中央会
運営協力：宮崎県中小企業団体中央会青年部/宮崎県中小企業団体中央会



宮崎県中小企業団体中央会
青年部会長 中村 鉄兵

スズキがプロレイトマ (Fujitsu) をダウンロードし、
この機会に必ずしもベストな結果が得られるとは限りませんが、
1回、2回は必ず試してください。

開催地会長ごあいさつ

このたび、平成26年度全国中小企業青年中央会通常総会を上山会長のお膝元である宮崎県で開催させていただくこととなり、深く感謝申し上げます。

宮崎県は、数年前の口蹄疫や新燃岳噴火により大きなダメージを受けましたが、全国の皆様からいただいた多くの支援や励ましにより復興が着実に進むと共に、明るい未来が見え始めております。今回、会員の皆様には遠方よりお越しいただくことにはなりますが、滞在中は精一杯のおもてなしの気持ちでお迎えしたいと思います。

「さあ、行こうよ! 熱い仲間が待っている。新たな挑戦!! 異業種連携・部活動」全国の志高き熱い皆様の御参加を心よりお待ちしております。



九州ブロック中小企業青年中央会
会長 田川 清浩

応援メッセージ

我々九州ブロックには、伝統的な言葉があります。それは「九州は一つ!!」です。今回の宮崎での「全青中通常総会」も「気持ちを一つ」にオール九州でサポートいたします。全国の皆様、この総会を「実りある時間」にしましょう。そして楽しんでください。宮崎へのお越しを心からお待ちしております。

＝九州青年中央会一同＝

◆会場までのアクセス



ニューウェルシティ宮崎

〒880-0879 宮崎市宮崎駅東1丁目2番地8
TEL 0985-23-3311 FAX 0985-25-1262

- ★JR宮崎駅東口 …………… 徒歩3分
- ★宮崎空港から …………… JRで10分
タクシーで20分
- ★宮崎ICより …………… 車で20分

お問い合わせ先

宮崎県中小企業団体中央会

〒880-0013 宮崎市松橋2丁目4番31号
中小企業会館3F
TEL 0985-24-4278 FAX 0985-27-3672
担当：中村・豊澤



航空機	所要時間
東京(羽田) — 宮崎	(約90分)
名古屋(セントレア) — 宮崎	(約75分)
大阪(伊丹) — 宮崎	(約60分)
福岡 — 宮崎	(約45分)
JR(特急)	所要時間
博多 — 宮崎	(約5時間)
九州新幹線	所要時間
博多 — 宮崎	(約3時間30分)
<small>※博多駅より新八代駅が新幹線、新八代駅より宮崎駅はIC(在来線)で運行です。</small>	
高速自動車道	所要時間
福岡IC — 宮崎IC	(約3時間20分)
熊本IC — 宮崎IC	(約2時間10分)
鹿児島IC — 宮崎IC	(約1時間50分)

エキスカーションのご案内

ダンロップフェニックストーナメント開催コース フェニックスカントリークラブ



6/14+ 20組限定 お一人様 16,000円
(キャディ付)

■コースの指定はできません。■服用カートはございません。徒歩でのプレーとなります。

世界の超一流が集結して華麗な技を競うダンロップフェニックストーナメントの舞台として、数々の伝説やドラマが刻まれた日本最高峰のゴルフコースです。宮崎の青空、フェアウェイの緑、そしてバンカーのコントラストが美しい反面、幾多のアスリートの挑戦を退けてきた手強いコースです。お申込みは宮崎県中小企業団体中央会(TEL 0985-24-4278 担当:中村・豊澤)まで。

■フェニックスカントリークラブ
宮崎市塩路浜山 3085 TEL 0985-21-1301

平成25年度全国講習会を終えて（お礼）

（三重県中小企業青年中央会 会長 伊藤竜己）

ご多忙の中、四日市市で開催された組合青年部全国講習会にご参加いただきました青年中央会の皆様、誠にありがとうございました。当県での開催にあたり、開催運営の準備を行ううえで大変なことも数多くありましたが、無事に終わることができました。

当県青年中央会といたしましては、理事をはじめ、会員が一丸となってこの経験を今後の運営に活かしていきたいと考えております。

（三重県青年中央会事務局より）

平成25年11月8日（金）、四日市市「四日市都ホテル」において、組合青年部全国講習会が開催され、当日は多数の各都道府県青年中央会の皆様にお越しいただき、おかげをもちまして、盛大に開催することができました。この場をお借りしまして、参加いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。

第1部では井村屋株式会社の代表取締役会長である浅田剛夫氏を講師に、「特色経営のあゆみ～人のやらないことをやる～」についてご講演いただき、同社の独自の経営スタイルである「特色経営」は、顧客に大きなメリットを与えてこそ意味があり、経営者として常に自社の特色とは何かを意識し続けることを心がけることが重要であるとの説明をいただきました。

第2部では、合同会社マネジメントオフィス・ハシモトの代表社員である橋本大輔氏を講師に、「青年部に入っていて良かったなと思うことはなんですか？」をテーマとして、当県青年中央会理事の今までとは違った切り口をとの思いから計画した、ワールドカフェ方式ディスカッションを実施しました。このディスカッションでは、青年部や青年中央会に加入しているメリット、加入して自分自身が変わった点やプライベートな繋がりなど、模造紙に書き込みながらそれぞれの思いを語り合い、気付きを得ることができました。

その後の懇親会では、最初に伊勢神宮御遷宮お木曳の木遣り歌が披露され、遷宮を迎えた伊勢の雰囲気を感じていただいた後、ディスカッションで知り合った仲間達と活発な意見交換を行うなかで、交流を更に深めていただけました。



3. 11から3年 東北被災地の現状

東日本大震災は平成23年3月11日、14時46分に発生。観測史上最大の地震による揺れと津波により、死者・行方不明者は18,508人、建築物の全壊・半壊は合わせて40万0,246戸という甚大な被害をもたらしました。

震災から3年が経過した現在の状況について、特に被害が甚大だった宮城県、岩手県、福島県から報告致します。

【宮城県】

宮城県は震災復興計画を平成32年まで復旧期、再生期、発展期の3期に区分しており、平成25年度は復旧期最後の年となりました。

平成26年4月現在、復旧の足かせとなっていた1千100万トンを超える震災がれきは仮設焼却炉による焼却や他府県による受入により処理が完了しています。がれき受入に協力いただいた他府県の皆様には感謝の念に堪えません。

また、皆様から頂戴した義援金は被災地復興の観点から津波被害のあった塩釜市を会場にした講演会開催等に活用させて頂きました。これらの活動により地元の消費拡大に繋がり、被災中小企業の復興の一步とすることができました。

宮城県では、特に沿岸地域の津波被害が深刻で気仙沼市、石巻市、女川町、南三陸町、東松島市、名取市、多賀城市、山元町、亘理町、七ヶ浜町では壊滅的な被害を蒙りました。

こうした状況の中、県内組合青年部では自らが被災したにも関わらず、震災直後から県内ライフラインの復旧等に率先して取り組み、早期復旧の礎を築いたことは後世に誇るべき大変意義のあることでした。

震災後3年間で県内被災中小企業の3721社が国による中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業を活用。中小企業組合においては、15組合が宮城県による被災中小企業組合等共同施設等復旧支援費補助金を活用して保有施設の復旧に邁進しました。また、独立行政法人中小企業基盤整備機構による仮設施設整備事業（宮城県内145施設）、更には民間設置のファンドによる支援など様々な支援が行われました。

上記の支援施策により被災企業の建物・倉庫・機械設備等の新設、修繕が行われ、かつ、震災復興住宅の建築が加速する一方で、現在では建設資材、労務費の価格が高騰し中小の建設業においては、「仕事はあるが利益の確保ができない」といった逆ザヤの問題が発生しています。このことから、民間発注のみならず地方公共団体発注物件についても入札不調といった事態が起こっており、被災地に足を運ぶと工事が未着手で、更地のままとなっている光景が数多く見受けられます。

建物・施設の復旧の遅れは特に沿岸部の人口減少に拍車をかけるおそれがあります。復興事業の拠点が集中する仙台市に転入者が増加する一方で、沿岸部で壊滅的な被害を受けた女川町では被災前と比較し25.5%の人口が減少しているとの調査結果があります。人口減少は地域経済の規模の縮小に直結します。特に中小小売事業者については、震災直後は仮設商店街により営業を続けていたものの、将来の不安から廃業を検討しているといったケースも発生しています。中小企業にとって、まさに、これからの正念場といったところです。



気仙沼の復興商店街



瓦礫は撤去されたものの、更地となっている



解体が進まず手つかずとなっている建物

【岩手県】

東日本大震災の発災から3年余りが経過しましたが、これまでみなさまから多くの温かい励ましのお言葉やご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

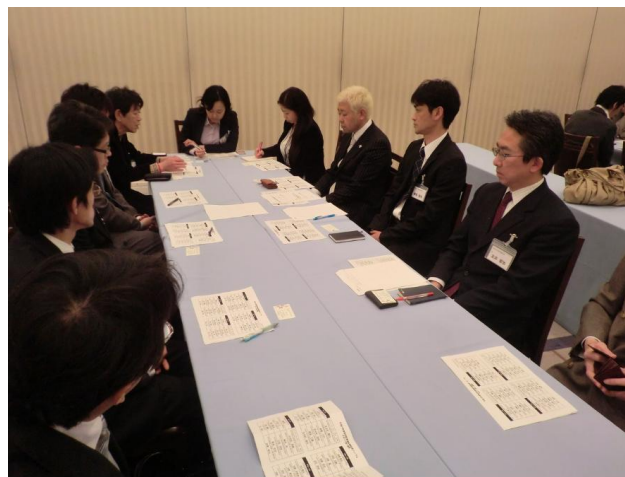
岩手県では、平成25年度を「復興加速年」と位置づけ、復興計画に掲げる「暮らしの再建」や「なりわいの再生」に向けた取り組みなど、復興の基盤づくりが進められてきました。また、NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」の大ヒットや、三陸地域の日本ジオパーク認定など、復興に取り組む岩手を元気づけてくれる明るい話題の多い一年でもありました。

震災により被害を受けた中小企業者は、グループ補助金等を活用しながら、施設・設備等の復旧、事業の再建に取り組んでいます。私どもの事務局を置く岩手県中小企業団体中央会でも、グループ補助金認定申請及び認定後の事業構築等に対する支援を行うとともに、組合及び組合員の経営課題克服による基盤強化のため支援を行って参りました。組合の共同施設等の震災による被害は100組合（内全壊44組合）ありましたが、現在は78組合が復旧し、事業を再開しております。また、被災地では、水産加工業、旅館ホテル業等の再建をはじめとして、本会の組織化支援により、これまで20組合が設立されております。

青年中央会では、会員の経済的負担を軽減し、今後の青年部活動が持続的に行われるよう、皆様から頂いた義援金の一部は平成23年度分の会費に充当させていただきました。また、震災後の新しい試みとして、県内の各業界の若手経営者により「岩手の復興」をテーマとした全員参加型のディスカッションを行いました。実に多くの発言と意見が交わされ、非常に活発な場となり、復興への関心・意欲をより高める大変有意義な機会になったと考えております。今後も引き続きこのような復興支援活動を実施していく予定です。

本年度は、県の復興計画における「本格復興期間（平成26年度から平成28年度）」の初年度となることから、本格復興の実現に向けた取組が進められます。災害公営住宅の建設開始、三陸道路の一部開通、瓦礫撤去の終了、4月には三陸鉄道も全線で運行を再開するなど、徐々に復興への足取りが進んでおりますが、事業を再開した中小企業者の中には、まだ震災前の業績には戻っていない事業者もいるなど、本格的復興までには道半ばにあります。さらに、人手不足、資材価格高騰による復興工事の遅れといった、新たな問題にも直面しています。今後、インフラ等復興工事の進行とともに「街づくり」が本格的に着手されることとなりますが、本設店舗の移転先や資金的な問題等も障壁となっております。

被災した事業者が将来に向かって持続ある発展を図るためには、従来にも増して柔軟かつ高度な事業運営が求められています。中央会及び青年中央会としても、被災した組合及び組合員、そして組合青年部の皆様の再生と発展のため、引き続き支援を行って参ります。



「岩手の復興」をテーマとしたディスカッションの様子



復興工事が進む陸前高田市



一部区間が開通した三陸沿岸道路



全線で運行を再開した三陸鉄道

【福島県】

M9.0を記録し観測史上最大の地震となった「東北地方太平洋沖地震」の発生から3年。県内に全壊 21,246 棟、半壊 73,483 棟、公共施設被害総額約 6,000 億円の甚大な爪痕を残した地震及び津波の被害に加え、福島県では東京電力福島第一原子力発電所事故及び風評被害による非常に複雑な困難に苛まれました。

平成 26 年 3 月末現在においても、原子力災害による帰宅困難区域・居住制限区域等の指定により 13 万 4 千人の方が避難生活を続けており、そのうち県外へ避難された方は 4 万 8 千人に上ります。また災害廃棄物の処理について中通りや会津地方における処理がほぼ完了している反面、浜通り地方においては未だ 53.1%の進捗状況となっています。加えて、放射性物質を含む下水汚泥や焼却灰の保管量は増加しており、搬出先の確保と減容化が課題となっています。また、除染の進捗状況についても、住宅が 35.4%、道路が 26.7%とまだまだ遅れている状況があり、とりわけ原子力災害からの復興への道のりはまだまだ険しく、長い戦いの中にあると言えます。

このような状況において、震災直後より全国各地の青年部の皆様から頂戴いたしました励ましの数々が、復興に向かう本県青年部一人一人にとって力強い拠り所となりましたことを、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。皆様から頂戴した義捐金については、会員青年部が実施する復興活動への補助として活用させていただきました。

震災後、福島県では会津若松市がNHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台となったことや、福島市において東北六魂祭、郡山市で東京ガールズコレクション in 福島 2014 等が開催されたこと等により、全国から多くの方に本県を訪れていただきました。また、立地補助金により 405 社の企業が県内に工場等を新設又は増設し、4,955 人の新たな雇用が創出される見込となっております。また、広野町・楢葉町沖に浮体式洋上風力発電実証研究事業が進められているほか、平成 26 年 4 月には産業技術総合研究所の福島再生可能エネルギー研究所が開所され、再生可能エネルギーを推進する体制が整いつつあります。本県青年中央会及び会員青年部においても、BCP に代表される災害対策への意識向上や、改めて自分たちの地域を見直す活動が活性化されました。

震災及び原発事故は不幸な出来事ではありましたが、これにより再確認された全国の青年経営者との絆、新産業への期待、地域への熱い思いを胸に、福島県の青年経営者は復興に邁進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



復興イベント等の状況



福島第一原子力発電所事故の影響により復旧が進まない浪江町。
商店街や打ち上げられたままの漁船は震災直後から変化がない。
(平成 25 年 10 月撮影)



【まとめ】

今後も東京オリンピック開催を控え建設資材、労務費の高騰による復興への影響が引き続き懸念されますが、我々、青年部のメンバーは目の前にある課題を都度、克服し、常に前を向いて行動するしかありません。その為には、同じ思いをもつ仲間存在は欠かすことができません。各青年部、青年中央会、全国中小企業青年中央会といった組織があり、そこで切磋琢磨する仲間存在が安心感をもたらし、そして勇気を与えてくれるものと信じています。

全国の皆様には、これからも何かと協力をお願いすることもあるかと思われませんが引き続きよろしくお願い申し上げます。

編集後記

皆様こんにちは。全青中だより10号の編集委員の山口です。
時間が経つのは早いもので、上山会長のもと、現体制で最後の発行になりました。

今回の編集にあたり、震災の衝撃から時間が経つにつれて、
テレビ、新聞などから被災地の情報が次第に少なくなってきた今だからこそ、
現状を伝えなければと東北ブロックに寄稿をお願いしました。

まだまだ乗り越えなければならぬ事はありますが、
どんな事にも立ち向かえるのが青年の特権です。
みんなで力を合わせて乗り越えましょう。

全国中小企業青年中央会 理事 山口 真延